



16図
有孔虫の化石
スケール 1 mm)

利田層の泥岩からは、かなり前から、グロビゲリナ、グロボクアデリナ、グロボロタリア、アノマリノイデス、ブリザリナ、ブリミナ、デンタリナ、フィスリナ、ラゲナ、メロニス、サイクラミナなどの有孔虫が産出すると報告されています。

漆窪層からサイクラミナという有孔虫が産するとされています。

(2) ウニの化石

ウニは棘皮動物の仲間で海にすみ、形は丸く、平たいものやまんじゅう形をしており、石灰質の殻をもっています。表面には放射状に5つの帯と多数の棘があります。

化石としては、塩坪層からまんじゅう形の体の部分と棘がよく産出します。漆窪層からも棘などの化石が見つかります。



第17図
ウニの化石
(スケール10cm)

(3) 貝化石

貝化石は漆窪層と塩坪層、それに藤峠層から見つかっています。特に漆窪層と塩坪層から産出する二枚貝や巻貝は、福島県立博物館の調査によれば「塩坪原型化石動物群」と「耶麻化石動物群」に属する、特徴的な貝化石であるといわれています。これらはすべて海生の貝ですが、藤峠層から見つかる貝化石は淡水あるいは汽水域に棲むものが産出しています。高郷を含む、周辺自然环境が、海から湖・河口のような地域に変わったことを示しています。

まず漆窪層と塩坪層から見つかる貝化石のおもなものを次に紹介しましょう。